

[主催者代表挨拶]

丹羽秀樹 文部科学副大臣

皆様、本日は、お忙しい中、「第12回国際教育協力日本フォーラム」にご参加いただき、御礼申し上げます。文部科学副大臣の丹羽秀樹です。文部科学省を代表して、皆様にご挨拶を申し上げます。

本フォーラムは、外務省、広島大学、筑波大学、文部科学省が主催者となり、開発途上国自身による自立的な教育開発とその自助努力を支援する国際教育協力のあり方について、教育開発に携わる行政官、援助機関関係者、NGO、研究者等が自由かつ率直に意見交換することを目的に、2004年から毎年開催しているものです。

本フォーラムの今回のテーマは、「EFA（万人のための教育）の成果と2015年より先の課題」です。皆様ご承知のとおり、2015年は、2000年から開始された「EFAダカール行動枠組」の達成目標年であるとともに、2015年以降の目標等について議論し定めるといった、国際教育協力にとって重要な年となっております。

これまで、「EFAダカール行動枠組」の達成に向けては、文部科学省においても、ユネスコ事業を通じた支援や小中高等学校の教員ボランティア派遣制度の整備等を実施し、EFA目標の達成に向けた取組を推進してきたところです。

また、日本を含む国際社会はEFAの達成に向けて一致団結して取り組んできており、就学率や識字率の向上等、目標の一部は達成されつつありますが、これらの目標がまだまだ達成されていない地域や、教育の質の面における課題が見受けられるなど、目標の完全達成は困難といった状況にあると言われております。

現在、ユネスコが主導機関となり、加盟国政府、国際機関、NGO及び専門家等と協働しながら、これまでのEFAの成果をレビューするとともに、2015年以降の取り組みに向けた検討が行われており、本年5月に韓国・インチョンで開催される「世界教育フォーラム」において、2030年までの世界の教育目標である「ポスト2015教育アジェンダ」が採択される予定です。

「世界教育フォーラム」を5月に控えたこの時期に、本フォーラムを開催し、様々な知見・経験を有する皆様と、これまでのEFAの成果を振り返り、課題をしっかりと把握・共有するとともに、2015年以降の教育協力の在り方についての意見交換を行えますことは、大変貴重な機会であり、時宜にかなったものと考えております。

さて、昨年11月、我が国はユネスコと共催で「ESDに関するユネスコ世界会議」を開催し、「あいち・なごや宣言」が採択されました。持続可能な社会の担い手を育む教育であるESDは、教育の質を向上させ、今後の教育を方向付けるものであり、「ポスト2015教育アジェンダ」に盛り込まれることが重要です。2015年以降も我が国は、「国連ESDの10年」の後継プログラムであり、2014年12月の国連総会で採択された「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム」（GAP）に沿ってESDを推進しています。

文部科学省としては、引き続き、更なる持続可能な未来に向けての活動のスケールアップに取り組む所存です。このため、本日のフォーラムにおける講演や議論を通じて各国の知見を共有し、実りある成果が収められるとともに、その成果が教育の質の向上につながることを期待しております。

最後に、本フォーラムの実施にあたりご尽力いただいた関係者の皆様に感謝の意を表しますとともに、本日のフォーラムが皆様の今後の活動にとって有意義なものとなりますことを祈念しまして私からのご挨拶とさせていただきます。